

# 「とっどりの評判記」

第9話

なんでも

しかの ばし いちば  
鹿野橋の市場のにぎわい



やまびこ博士

こだまちゃん



「内市」のにぎわい

**やまびこ博士**：今日は、旧袋川にかかる、鹿野橋にやってきました。この橋は、鹿野街道という、旧城下町の目抜き通りのひとつに続く橋だよ。

**こだまちゃん**：ふああ、川からの風が冷たいよう。

**やまびこ博士**：この橋は、元和5年（1619年）にはじまる池田光政の城下町拡張に際して架けられた橋で、江戸時代にはもう少し川下にあったんだ。

**こだまちゃん**：ふうん。

**やまびこ博士**：もともと鹿野街道は、旧袋川を越える前に、カギ型に曲がっていた。その曲がったところが少し広がっていて、「枡形」と呼ばれていたんだ。昔、ここは大きな市場だったんだよ。

**こだまちゃん**：えー？ そうなの？

**やまびこ博士**：元禄時代（1688～1703年）に、近隣のお百姓さんたちが藩に許可を得て野菜などの市をたてたのがそのはじまりと言われている。久松山側だけでなく、橋をはさんで反対側の道の広がったところにも市ができ、山側を「内市」、外側を「外市」と呼ぶようになったんだ。

**こだまちゃん**：ここにふたつも市場があったんだ。

**やまびこ博士**：江戸時代には、元旦と旧暦9月17日の2日を除き、5日交代でどちらかの市が開かれた。

**こだまちゃん**：ほとんど年中無休だったのね。

**やまびこ博士**：はじめは野菜や雑貨など食料品が

中心だったが、人がたくさん集まると、日用雑貨や生活用品まで扱うようになったんだ。

**こだまちゃん**：大きなコンビニエンスストアみたい！

**やまびこ博士**：この市場は、明治以降も城下町の台所として繁盛した。残されている昭和初期より前の写真を見ると、今ではあまり見かけない、人々が密集して買い物をする姿が写されている。

**こだまちゃん**：わあ、目が回りそう！ こんなすごい市場が、どうして今はなくなっているの？

**やまびこ博士**：明治以降、道路使用を巡って制限を受け、また、鳥取大震災・鳥取大火というたび重なる災害に見舞われた影響も大きいようだけれど、最終的に市場がなくなったのは昭和48年のことだ。この年、鳥取市公設地方市場が開設され、鹿野橋の両市場はその役割を終えたんだ。

**こだまちゃん**：そうなんだ。

**やまびこ博士**：鹿野橋の市場は、単に買い物をする所というだけでなく、さまざまな人々の日常的な交流の場であり、レクリエーションの場でもあった。いわば町の賑わいのシンボルだったんだよ。

**こだまちゃん**：にぎやかな声の聞こえる、こんな場所が、またどこかにできないかなあ。

【佐々木孝文（鳥取市歴史博物館学芸員）】